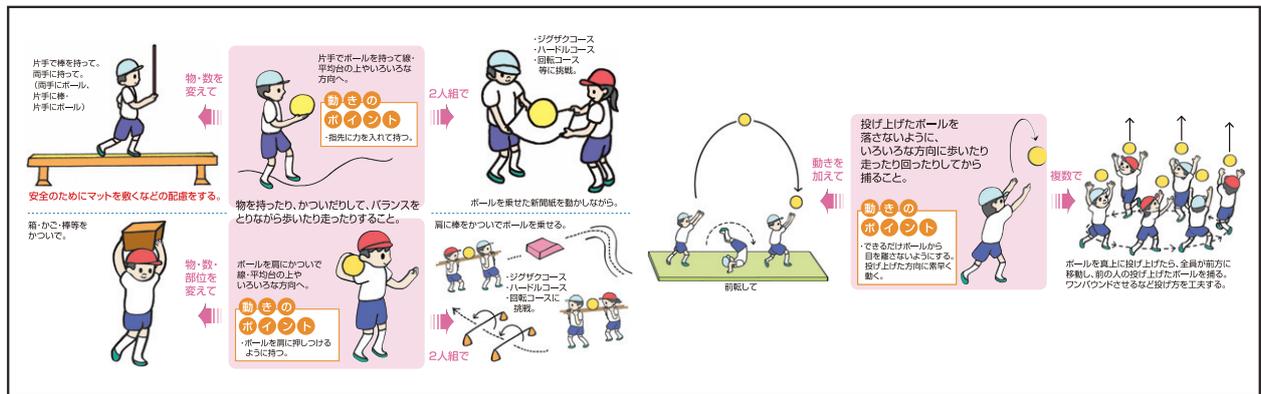
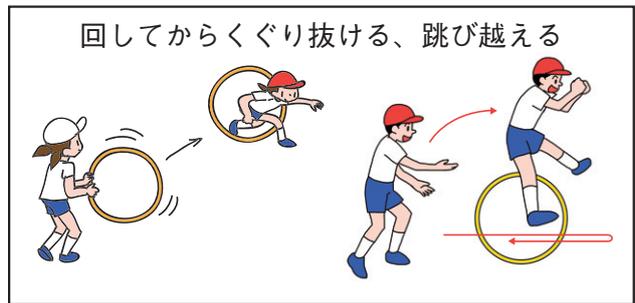


基本的な動きを組み合わせる運動は、中学年で新たに加わる運動で、これまでに経験した基本的な動きを2つ以上組み合わせて行うものです。[例示]には「バランスをとりながら移動するなどの動き」「用具を操作しながら移動するなどの動き」が示されており、「～しながら～する」という2つの動きを同時に行う運動や、「～してから～する」といった種類の違う動きを連続して行う運動です。動きを意図的に組み合わせることで、やや難しい運動に取り組み、動きの質を高めると同時に意欲を高めることも、基本的な動きを組み合わせる運動のねらいです。

例えば、輪を腕で回しながら走ったり、なわ跳びを跳びながらいろいろなリズムで様々な方向に動くことなどは、用具を操作する動きと体を移動する動きとを組み合わせた運動であり、基本的な動きを意図的に組み合わせた、より複雑な動きを経験することができます。

その他にも、ボールを投げ上げてから前回りをし、落ちてきたボールをキャッチしたり、輪をまっすぐに転がして動いている輪を跳び越したり、くぐり抜けたりするなどは、用具を操作する動きと移動する動きとを組み合わせた運動です。ここでは、基本的な動きを連続して行うなかで、状況に応じたリズムやタイミングのとり方、素早い動きや滑らかな動きなど、より質の高い動きづくりを進めます。



【指導のポイント】

中学年では、低学年での学習をもとに、児童が取り組みたい運動を選んだり、工夫したりするという活動を多く設定することが考えられます。したがって、多様な動きをつくる運動の学習においては、まず、低学年でどのような動きづくりが行われてきたのかを把握することが大切になってきます。もちろん、低学年での動きの習得が十分でない場合は、一つ一つの動きの確認を行い、確かな動きを身に付けた上で確かな動きを身に付け、それを基にした基本的な動きを組み合わせる動きを行うことが必要です。

○授業づくりについて

教師は、ねらいを明確にし、児童にとって楽しく夢中になって取り組めるような運動を経験する中で、体の基本的な動きを総合的に身に付けることができるよう、授業としてのまとまりをつくるのが大切です。

そのためにも、ただ単調に運動を繰り返すだけでなく、「多様な動きをつくる運動（遊び）」

パンフレット」や「小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック」に示されているように、基本的な動きをもとにして、人数、用具、高さ、方向、組み合わせ方などに変化をつけてより楽しい運動に広げていくことが重要です。

○学習の流れ

低学年での既習経験が少なく、基本的な動きが十分に身に付いていない場合は、単元の前半で動きを確認しながら運動を行い、単元の後半でその動きを生かした組み合わせの運動を行うような指導計画が考えられます。児童が動きのこつをつかみ、動きの高まりが見られるようであれば、児童が主体的に動きを工夫する時間を多く設定し、それまで学習したことを活用する学習を進めることができます。

最初は低学年で経験した動きを行うことで、児童にとっては運動に慣れることができ、教師にとっては実態を把握することができます。その上で、低学年では扱わなかった新たな運動や基本的な動きを組み合わせる運動を取り入れて楽しい活動にしていくことが重要です。何時間か取り組んだ複数の運動をもとに、それらを組み合わせる時間を設定したり、一つの運動と基本的な動きを組み合わせる運動とを1単位時間のなか順次行うように配置したりすることが考えられます。また、各学年の単元後半では、自分でこれまでの経験を生かして組み合わせる運動を工夫しながら実際に取り組んでみたり、それを友達に紹介したりすることで、動きのこつや工夫の仕方を共有することができるようにしていくことも大切です。

○教師の言葉かけ

低学年と同様に、教師は児童のよい動きを取り上げ、問いかけや言葉かけを工夫することによって様々な動きのこつをつかむ上で大事な役割になります。中学年では、これまでに身に付けた動きをもとに発展的な動きを工夫する活動が多くなります。そのため、例えば、児童が多様に運動をアレンジするような学習活動では、「とっても楽しい運動だし、よく工夫しているね。〇〇するともっとよくなるね。」などと、児童の考えを認めながらも指導のねらいにあった動きに軌道修正する言葉かけが重要です。ペアやグループなどで考えた基本的な動きを組み合わせる動きを互いに紹介し合い、体験し合うなどの活動では、「どんなことに気をつけると上手にできるの?」「やってみてわかった、上手にできるポイントは何?」といった問いかけをしながら、動きのこつを引き出すことが大切です。そしてよい動きは、児童が実際に動いて経験できるようにします。

○学習形態について

低学年と同様に、一人で活動したり、ペアやグループで運動を行ったりするなど、学習形態を工夫することでより楽しい運動になり、互いにより動きに気付いたり、工夫の視点を広げたりすることにつながります。固定したグループで取り組むと友達の伸びや変化を継続して見合うことができ、兄弟グループを決めておくと工夫した運動を交流し合うことができます。

○場づくりについて

中学年でも、児童にとって運動への意欲が喚起されるような場づくりが大切です。また、努力を要する児童や特別な支援を必要とする児童に対して、易しい場を用意しておくことも重要です。特に中学年では、運動を選んだり組み合わせたりする活動が多くなると考えられるので、児童が安全に配慮しながら多様な場づくりをしていけるようにします。